

20年の絆を次代へ繋ぐ交流イベント 文京学院大学×福島県郡山市逢瀬町 「逢瀬の日 ひさしぶり、逢瀬町。In 東京～これまでとこれからと。～」開催

文京学院大学(学長:福井勉)まちづくり研究センター(まちラボ)と、福島県逢瀬(おうせ)町の農家を中心に構成されている逢瀬いなか体験交流協議会(福島県郡山市)は、2026年1月31日(土)、交流イベント「逢瀬の日 ひさしぶり、逢瀬町。In 東京～これまでとこれからと。～」を本学本郷キャンパスにて開催することをお知らせします。

本イベントは、逢瀬いなか体験交流協議会の方々6名を大学にお招きし、20年続く本学学生と地域の交流の軌跡を紹介するとともに、地元の野菜定期便の紹介、郷土料理を味わう交流会、さらに今年2月に催行予定の大学生向けの逢瀬町での農村体験スタディツアーに関する説明会も開催します。

2026年から本格始動する「貢献型旅行を起点とした逢瀬町関係人口創出プロジェクト」(まちラボ独立プロジェクト)の都市と農村をつなぐハブとなるイベントです。ぜひご来場ください。

文京学院大学と逢瀬町のつながり／本イベントの見どころ

本学と逢瀬町の関係は、人間学部の中山智晴副学長・教授が教鞭を執る環境問題研究ゼミナールが、2006年2月、グリーンツーリズムの先進地として訪れたところから始まります。これまで学生たちは、都市農村交流を通じて、逢瀬町の農業が直面する高齢化や後継者不足の課題に着目。地域の伝統文化や自然環境という特性を活かし、グリーンツーリズムの開催や農産物代行販売、文京ワインづくりなどのプロジェクトを立ち上げ、20年間にわたり創造性豊かな地域づくりをサポートしてきました。

本イベントの企画・運営は、本学の卒業生であり、逢瀬町へ移住した中潟亮兵氏と、文京学院大学まちラボ本郷に所属する学生4名が逢瀬いなか体験交流協議会と連携しながら行っています。中潟氏は、在学中に中山ゼミの研究活動を通じて逢瀬町と出会い、2017年に移住。現在は地域おこし団体「おおせのとおり」の代表として活動する傍ら、本学まちラボの研究者としても、都市農村交流や関係人口の創出に取り組んでいます。

【本イベントの見どころ】

- ◆逢瀬町の地域住民の方々との交流
- ◆逢瀬町との20年にわたる交流の軌跡を報告
- ◆大学生を対象とした農村体験スタディツアーの説明会を開催
- ◆新企画「貢献型旅行を起点とした逢瀬町関係人口創出プロジェクト」の発表 など

「逢瀬の日 ひさしぶり、逢瀬町。In 東京～これまでとこれからと。～」概要

日 時:2026年1月31日(土) 10時00分～15時00分 (出入り自由)
会 場:文京学院大学 本郷キャンパス まちづくり研究センター
(東京都文京区向丘1-19-1)

内 容:【タイムスケジュール】

10:00 開場／野菜定期便・加工品紹介
10:30 [第1部]
逢瀬町×文京学院大学の歩み／学生による活動報告／
農村体験スタディツアー説明会
12:00 [第2部]
みんなで食べる「餅バイキング交流会」(キャベツ餅ほか)
14:00 自由交流
15:00 終了

対 象:逢瀬町の活動に関心のある学生・社会人・地域住民ほか

参 加 費:無料 (要事前申し込み)

申込方法:以下のフォームよりお申込みください。

<https://x.gd/NhtlP>

【申込期限:2026年1月23日(金)】

共 催:逢瀬いなか体験交流協議会、文京学院大学まちづくり研究センター
後 援:福島県、郡山市

